

# 利益創出と環境保全

## CSRへの機運高まる

### 大手中心に広がり

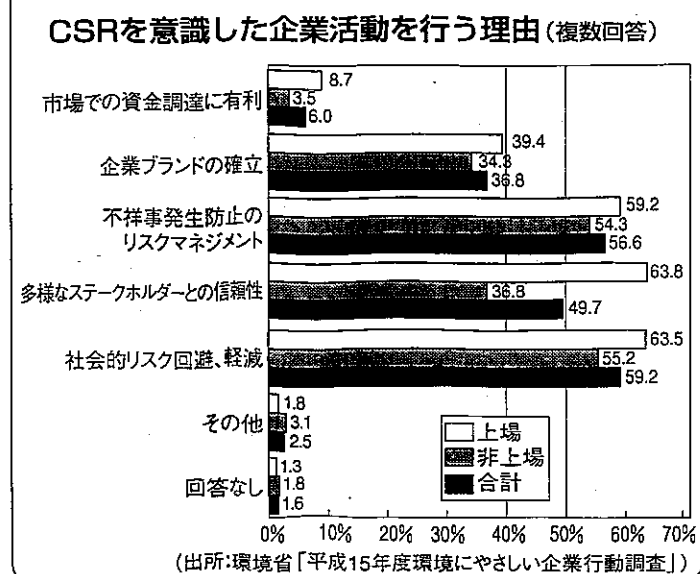
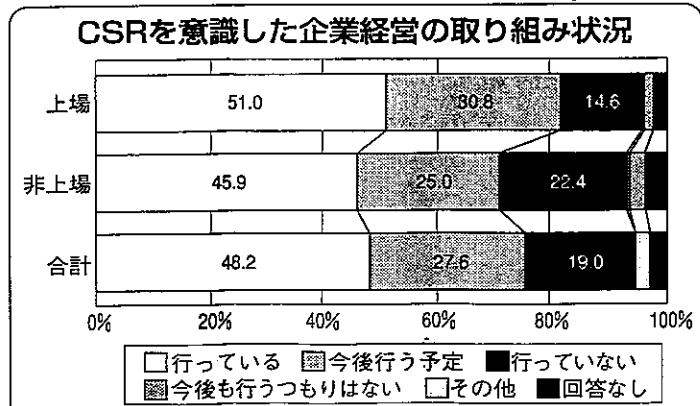
環境経営を実践する企業が増えている。利益創出と環境保全の同時実現を目指す概念で、大手企業を中心に広がりを見せている。ただ、最近ではCSR(企業)の社会的責任)への機運も高まっており、環境同様にCSRと向き合う企業も目立つ。その一方で、中小企業向けの環境経営システムガイドライン「エコアクション21」(EA21)の普及も進んでいる。

増加  
環境ISO1万6千社超  
報告書743社発行

環境経営が浸透してきている。環境ISOの審査登録件数は04年10月末時点で1万6696件。環境報告書を発行する企業も03年度は743社(環境省調べ)となった。なかでも環境報告書は98年度は合計197社、99年度は同270社、00年度は同430社だったことから、発行する企業が年々増えている傾向が見受けられる。そもそも、環境報告書は企業が自社やグループの環境保全活動やその成果を、株主や従業員、取引先といったステークホルダー(利害関係者)に公開するために、企業が毎年発行するものだが、環境ISOの普及がこうした傾向に拍車をかけている。

環境ISOの普及だけでなく環境省が推進する環境経営システムガイドライン「エコアクション21」(EA21)を導入する企業も増えている。EA21は、環境省が推進する中小事業者向けの環境経営システム、環境活動レポートのガイドライン。環境管理・監査の国際規格「ISO14001」の認証取得を持たない中小企業などに環境経営を促すために策定されたものだ。

事業者が事業活動で生じる環境負荷や環境保全を果たそうとする新しい経営理念とされている。企業不祥事が相次いだことや、環境省が企業活動の環境保全活動などの実施を把握するため、上場企業など6354社(回答は2795社)を実施した調査環境にやさしい企業行動調査「EYのEAS」(EAS)については「意識した経営を行っている」と答えた企業が全体の48.2%と最多だった。CSRへの関心の高さが分かる。



### 中小にも環境経営 「EA21」で普及促す

現在では地球環境戦略研究機関(IGES)の「環境」を構築。さらに「環境」ミニマリズムを促すために環境活動レポートを作成する。低コストでEMS構築ができることも、「例えば町工場やコンビニ、病院といった業種や規模を問わず取り組める」(同省環境経済課)のが特徴だ。そのため、これまで環境経営が浸透していなかった町工場や小規模事業者などでも取り組めるものとして、普及が期待されている。向けたツールとしての印象が強いEA21だが、実は大手企業でも採用が進んでいる。例えば、キリンビール(長崎県)が、EA21に基づいて活動する「EAS」構築に、事業者を認証する制度を展開。一方、環境省でも、環境省が、環境省を境カウンセラーを対象に、全国各地でエコアクション21を取り組む事業者を支援する指導者育成研修を実施している。中小企業のEAS構築に取組む、その後は年間6事業所ずつの取得を目指す方針を掲げている。

### 選ばれる会社へ脱皮

#### CSRで持続社会と共存

国内で進む環境経営が最近ではCSRに対する機運も高まっている。環境省が企業活動の環境保全活動などの実施を把握するため、上場企業など6354社(回答は2795社)を実施した調査環境にやさしい企業行動調査「EYのEAS」(EAS)については「意識した経営を行っている」と答えた企業が全体の48.2%と最多だった。CSRへの関心の高さが分かる。

「CSRとは、コーポレート・ソーシャル・レスポンスリテラシーの略。明確な定義はないが、一般的には、株主に利益をもたらす経済的側面だけでなく、環境的側面や法律順守などの社会的側面でもバランスよく責任を果たそうとする新しい経営理念とされている。企業不祥事が相次いだことや、環境省が企業活動の環境保全活動などの実施を把握するため、上場企業など6354社(回答は2795社)を実施した調査環境にやさしい企業行動調査「EYのEAS」(EAS)については「意識した経営を行っている」と答えた企業が全体の48.2%と最多だった。CSRへの関心の高さが分かる。

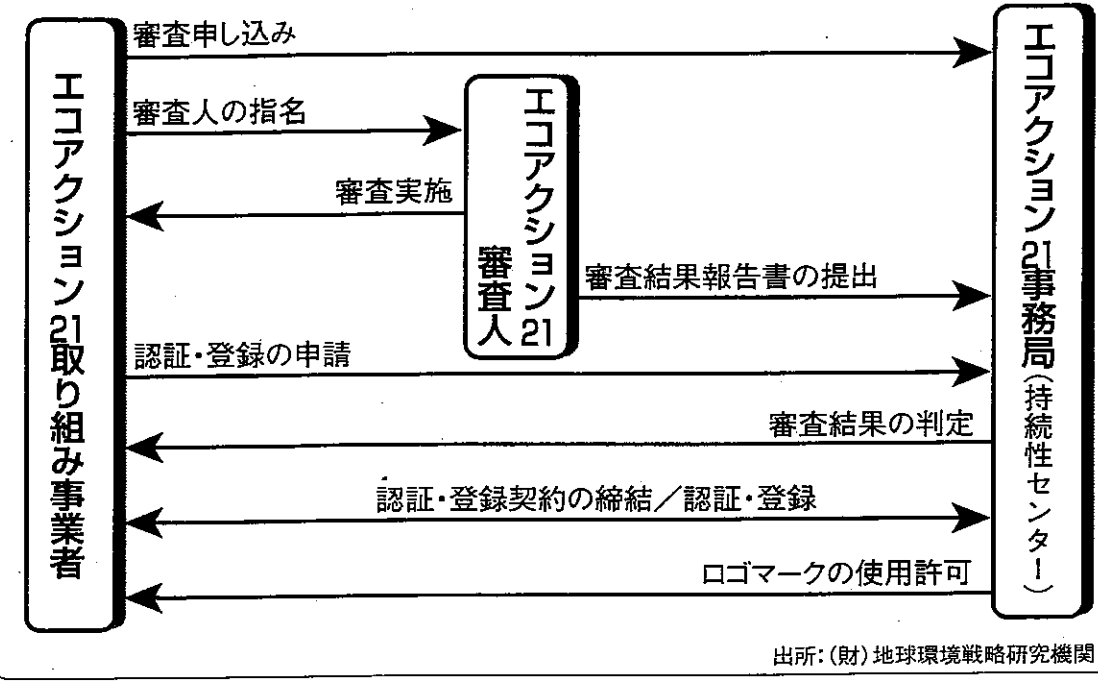
#### 「憲章」「規範」相次ぎ制定

#### 社員の行動を明記

こうしたなか、業界では比較的早くCSRに着目したリコーでは、昨年から「社会的責任経営報告書」を発行して、自社やグループで推進すべきCSR活動を明確化している。同社では昨年策定した「CSR憲章」のなかで、①誠実な企業活動②環境との調和③人権尊重④社会との調和⑤4分野を柱とした活動方針を明記。それを発展させた従業員が順守すべき具体的な活動を明記した「行動規範」も制定している。

また、アサヒビールでは「CSRレポート」のなかで①品質の追求②法令・倫理規範の順守③環境保全活動④適切な情報開示⑤地域社会との共生⑥適正飲酒の啓蒙活動⑦CSR経営への発展させた企業が今後も増えていくと見られる。

#### エコアクション21認証・登録制度



出所: (財)地球環境戦略研究機関